

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取中央） 1 2 月号

1. 松崎駅南梨生産団地の植え付け作業が始まる！

J A 鳥取中央が産地力向上に向けて進めている梨団地の棚が完成し、苗木の植え付け作業が始まった。湯梨浜町の JR 山陰本線松崎駅に隣接する松崎駅南梨生産団地は 1.6ha で露地「二十世紀」、「新甘泉」、「王秋」を栽培していく。「新甘泉 1,519 本」、「王秋 864 本」のジョイント用苗を 11 月 20 日～26 日にかけて植え付けを完了した。ジョイント用の苗木は同 J A が行う苗木育成の委託事業を活用。12 月には、「二十世紀 49 本」と交配樹用の苗 32 本の植え付け作業を進めている。「新甘泉・王秋」ともに、ジョイント網掛け無袋栽培で早期収穫を可能にし、作業軽減を図る。成園は 2024 年を予定しており、45t、3,000 万円の販売を目指す。



2. 直売所「旬鮮プラザ満菜館」が 10 周年大誕生祭を開催！

J A 鳥取中央直売所「旬鮮プラザ満菜館」は 11 月 23 日～24 日の 2 日間、10 周年を迎える大誕生祭を行った。会場には新鮮な農産物のほか、J A 鳥取中央長芋生産部による「ねばりっこ」の試食販売や進物の発送、J A えひめ南の「愛媛みかん」詰め放題や、鳥取県産新品種米「星空舞」の試食販売も行われた。



また、同直売所友の会による地元野菜とマーブルポークが入った豚汁やカニ汁を 500 杯ずつ無料提供し、来場者は冷えた体を温めながら美味しさを堪能した。

同会の中原会長は「10 周年を迎えることができうれしい。これからも消費者に足を運んでもらえる店作り、イベントをこまめに行っていきたい」と話す。

3. 農業祭での寄付金を贈呈！

J A 鳥取中央は 5 日、倉吉市にある児童養護施設社会福祉法人「因伯子供学園」に寄付金などを贈呈した。これは、地域貢献活動の一環として児童の健全育成を目的に毎年行っている。寄付したのは 12 月 1 日に同 J A 本所で開いた収穫感謝大農業祭で来場者に募った寄付金とみかん 1 箱、「J A 中央サミット」で協定を結んだ J A えひめ中央のみかんゼリー 5 個を贈呈。同 J A の栗原組合長が学園を訪れ、吉田園長に目録を手渡した。吉田園長は「毎年感謝している。子どもたちの自立支援のためにも大事に使わせていただく」と話す。



4. 第1回就農相談会を開催！

J A鳥取中央では、毎月第2水曜日に就農相談会を開き、新規就農者の獲得につなげていく取り組みを始めた。同J A管内の農業に興味を持つ人を対象に、農作業の流れや就農するまでに必要な手続きなどを生産部や行政、農業大学校などの関係機関と連携を図りながら説明し、継続的な支援体制、就農へのプロセスにつなげていく。初回となる12月11日には、新規就農予定者3人が参加し栽培したい品目や栽培体制、栽培するにあたっての資金面などの聞き取りをしながら、農業大学校の研修制度などについて幅広い情報を提供した。参加者等から、遊休農地の活用や就農後の初期費用などについて質問があり、J A担当者などが分かりやすく説明した。梨作りに興味を持った愛知県からの参加者は「就農する時の問題点や不安な点を、現場の生の声が聞けたことで方向性が見え参加して良かった」と話す。

